

平成29年度 IAMASの活動と運営報告





情報科学芸術大学院大学

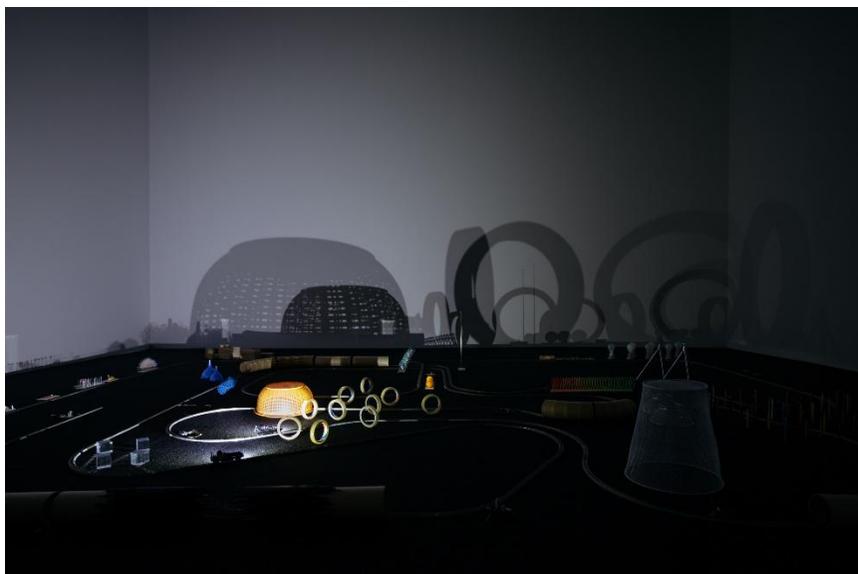
Institute of Advanced Media Arts and Sciences

— 目次 —

組織の概要	3
活動の概要	13
運営の概要	26

IAMAS の目的

情報科学芸術大学院大学[IAMAS]は先端技術と芸術的創造の融合を建学の理念に、芸術、デザイン、工芸、人文学など様々な専門分野の融合による研究と実践から社会の新しい在り方を創造的に開拓する人材を育成するとともに、総合的な知を探求し、わたしたちの新しい文化や産業の在り方を提案する県立の大学院大学です。



[Calculated Imagination IAMASが発信するメディアアート]展//クワクポリョウタ《風景と映像》

- 沿革

- 1996 岐阜県立国際情報科学芸術アカデミー(IAMAS)を設立
- 2001 情報科学芸術大学院大学を開設
メディア表現研究科(修士課程)を設置
大学附属研究機関メディア文化センター(CMC)を設置
大学附属図書館を設置
- 2005 リンツ美術工芸大学と交換留学生協定
- 2010 メディア文化センター(CMC)を産業文化研究センター(RCIC)に改名
- 2012 岐阜県行政改革アクションプランにより国際情報科学芸術アカデミーを廃止
- 2014 ソフトピアジャパン地区へ、全学移転

教 育 目 標

情報科学芸術大学院大学は建学の理念に基づき、新しい文化を創造する高度な表現力を授け、現代社会の諸問題に応答できる人の育成を教育目標として掲げています。

- 学位授与方針(ディプロマポリシー)

情報科学芸術大学院大学は建学の理念に基づき、科学技術と哲学・思想的視野をとまなう新しい文化を創造する高度な表現者の育成を目標とし、その目標のために編成されたカリキュラムにおいて、所定の単位を取得することに加え、論文審査あるいは作品・論文審査、及び最終試験を合格した学生に修了を認定し、学位を授与します。

その際、以下の点が問われます。

- 専門性を有した自立したアーティスト・デザイナー・エンジニア・研究者・教育者として、必要な能力を身につけたか。
- 高い倫理性と強い責任感を意識し、未来の人間の生き方、幸福を追求しながら、研究が現代社会の諸問題に対する応答として成果を得ることができたか。
- 研究領域によらず様々な分野を専門とする人々とも互いに積極的に関わりあい、その交流の中から生み出される「新しい知」のあり方を身につけたか。

- 教育課程編成・実施の方針(カリキュラムポリシー)

情報科学芸術大学院大学は建学の理念に基づき、新しい文化を創造する高度な表現力修得を目指し、体系的に専門性を獲得するための実践的かつ領域横断的な科目を配置し、講義、演習、実習等を適切に組合せた高度な授業を開講するとともに優れた研究指導を行います。

- 高度な表現者としての素養を身に付けるとともに、社会の多様な要請に対応した幅広い知識と実践力を修得するため、プロジェクト科目および特別研究科目を設置する。
- 自らを批評し研究成果の社会的意義を問うための総合科目を設置する。
- 専門的な方法論と知識を体系的に学ぶために専門科目および制作演習科目を設置する。
- 問題発見力、課題探求力、問題解決力、表現能力、コミュニケーション能力など、研究において必須となる汎用的な能力を育成するため導入科目を設置する。

- 入学者受け入れの方針(アドミッション・ポリシー)

多様な背景を持った学生により高度な学習機会を与えるために、積極的な情報発信を行い、面接を主体とした多様な入学者選抜を実施しています。その際、以下のよな学生の入学を想定しています。

- 自らの専門領域を活かし、他分野と横断的な探求をする。
- 情報社会の新しいあり方を創造的に開拓する。
- 人や社会との新しい関係性を考え、次世代の産業を創出する。
- 様々な形態の芸術表現から新しい文化を創造する。
- 情報やコミュニケーションに新たな形を与え、地域社会に提案する心豊かな社会の実現をめざす。

全ての大学等において、以下の三つの方針を一貫性あるものとして策定し、公表するものとする。

①卒業認定・学位授与の方針、②教育課程編成・実施の方針、③入学者受け入れの方針

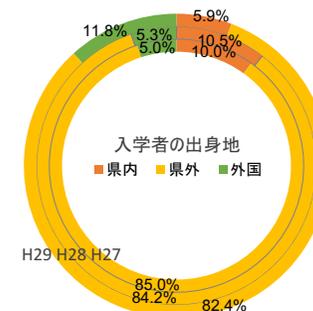
(学校教育法施行規則一部改正平成28年3月31日改正、平成29年4月1日施行)

学生

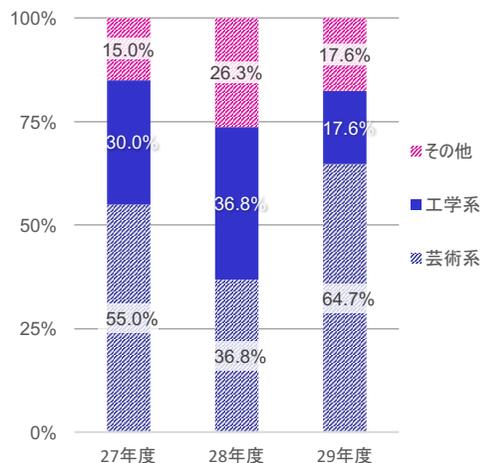
- 主に芸術、情報、工学、社会科学の出身者に加え、最近では、経済、法律、文学など、より分野の多彩化がすすんでいます。
- 常に社会人経験者が3~4割を占め、教員経験者も1割程度となっています。
- ダブルマスター入学者も徐々に増加しています。
- 比較的安定した出願者数(平均倍率1.5)となっており、全国大学院進学率(H29:11.9%(速報値),H28:12.1%)を鑑みれば健闘といえます。
- 多彩な出身地からの学生構成となっています。

- 学生受入状況(人)

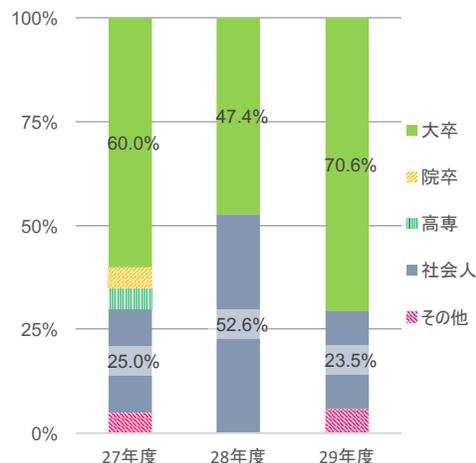
	入学者(倍率)	性別			出身地別			経歴別								
		男	女		県内	県外	外国	大卒	院卒	高専	研究生	専門学校等	社会人(文系)	社会人(理系)	社会人(教員)	
29年度	17 (1.8)	12	5		1	14	2	12					1	2	2	
28年度	19 (1.4)	15	4		2	16	1	9					6	4		
27年度	20 (1.8)	13	7		2	17	1	12	1	1	1			5		
26年度	22 (1.5)	16	6		3	18	1	12		1			2	5	2	
25年度	21 (1.0)	14	7		2	16	3	12					1	5	1	2



- 出身分野(%)



- 経歴(%)



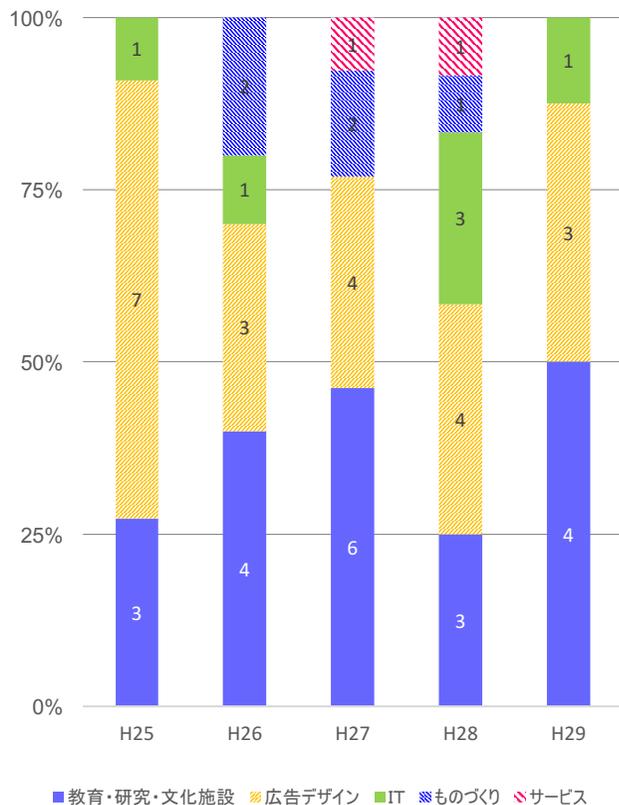
- 出身大学等(過去3年)

- H29- 福井大、富山大、ロシア国立ペルミバリエ学校、東京女大、長岡造大、名古屋学芸大、立命館大、大阪芸大、千葉大大学院、武蔵野美大、相模女大、ソウル芸大、日大、九州大、秋田工芸大、
- H28- 東工大大学院、慶應義塾大、岐阜大、早稲田大、名古屋学芸大、日大、名古屋芸術大、東京理科大、同志社大、中京大、明治大、立命館大、東京家政大、Kyungpook National Univ.
- H27- 九州大、一橋大、大阪大、名古屋大、千葉大大学院、日大、青学大、愛知県芸大、東京造形大、多摩美大、鈴鹿高専、名古屋芸大、名古屋市大、愛知淑徳大、札幌大谷大、成安造大、秋田県大、東京工芸大、Sogang Univ.

進路

- 教育機関や文化施設、広告やデザイン系企業への就職が多い傾向となっています。
- 近年はベンチャー型ものづくり系企業への就職希望者が増加しています。
- 卒業生ベンチャー企業(㈱ライゾマティクスや㈱GOCCO。など)で働く者も増加しています。
- フリーランスや自営でデザインやアートなどクリエイティブな仕事をする者は3割程度あります。
- 近年、県内での就職や自営、あるいは居住を希望する卒業生が増加し、東海圏における卒業生の定着率は高くなっています。

- 進路状況(人)



- 卒業生の進路

- 就職先(過去5年)

- 県内

(株)Grasp at the air、(株)インフォフォーム、(株)TAB、本巣市地域おこし協力隊、岐阜各務野高等学校、大日コンサルタント(株)、中村直永デザイン事務所、Fresh Lab Takayama、KAKKO E (同)、(公財)ソフピアジャパン

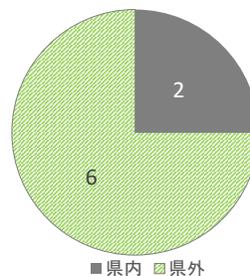
- 県外

多摩美術大学、(株)サイバーエージェント、SOLIZE Engineering、Noiz architects、チームラボ(株)、soft device.inc、日本システム開発 (株)、(株)アマナ、広島市立大学、武蔵野美術大学、名古屋芸術大学、(株)エジソンフィルム、(株)NHKアート、(株)ケイズデザインラボ、ユカイ工学(株)、(株)日本テレビアート、(株)二番工房、京都造形芸術大学、(株)プロノハーツ、秋田公立芸術大学、Noiz Architects、NTTインターコミュニケーション・センター [ICC]、(有)BANZAI CREATIVE、愛知淑徳大学、Takram desing engineering、(株)博報堂プロダクツ、(株)カヤック、(特非)こどもNPO、(株)N and R Foldings Japan、FMIいちのみや(株)、愛知北エフエム放送(株)、山口芸術情報センター[YCAM]、(株)ソニックジャム、(株)digitiminimi、慶應義塾大学SFC研究所、京都精華大学、秋田公立美術大学、(株)ゼオ、(株)QUANTUM、神戸芸術工科大学、(株)ライゾマティクス、名古屋芸術大学

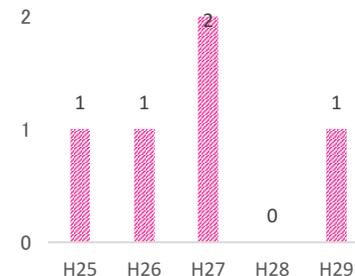
- 進学

京都市立芸術大学大学院美術研究科博士(後期)課程、慶應義塾大学大学院後期博士課程

- 就職先県内外別H29(人)



- 研究生の状況(人)



研究

- 公費や財団助成による研究、受託や委託研究と多くの研究が実施されています。
- 一般財団(小川科学技術財団など)の助成を受けている教員も3割程度あります。
- 他機関の研究に研究分担者として参加する教員も増えています。

- 外部資金研究

科学研究費 / 日本学術振興会 Grant-in-Aid for Scientific Research

基盤研究C ◎平林真実教授

H27-H29 音楽体験を拡張するための基盤技術とインタラクティブデザイン

基盤研究C ◎伊村靖子講師

H27-H29 1960~70年代に見られる芸術表現の研究拠点形成と資料アーカイブの構築

挑戦的萌芽研究 ◎赤羽亨准教授

H27-H29 3Dスキャニング技術を用いたインタラクティブアートの時空間アーカイブ

基盤研究C ◎松井茂准教授、伊村靖子講師

H29-H31 マス・メディア空間における芸術表現と情報流通の研究

基盤研究C ◎金山智子教授

H29-H31 コミュニティラジオがつくる震災の記録と記憶の可能性に関する研究

基盤研究C 松井茂准教授

H27-H29 オールアフレコを用いた次世代サウンドデザインの物語表現研究

基盤研究C 平林真実教授

H27-H29 コピペ時代のプログラミング能力評価手法の開発

基盤研究C 伊村靖子講師

H28-H30 1970年代における美術概念の再構築に関する研究:オーラルヒストリーを中心に

基盤研究B 山田晃嗣准教授

H27-H29 聴導犬をモデルにした接触コミュニケーションロボット

◎=研究代表者

- メディア芸術アーカイブ推進事業(文化芸術振興費補助金)

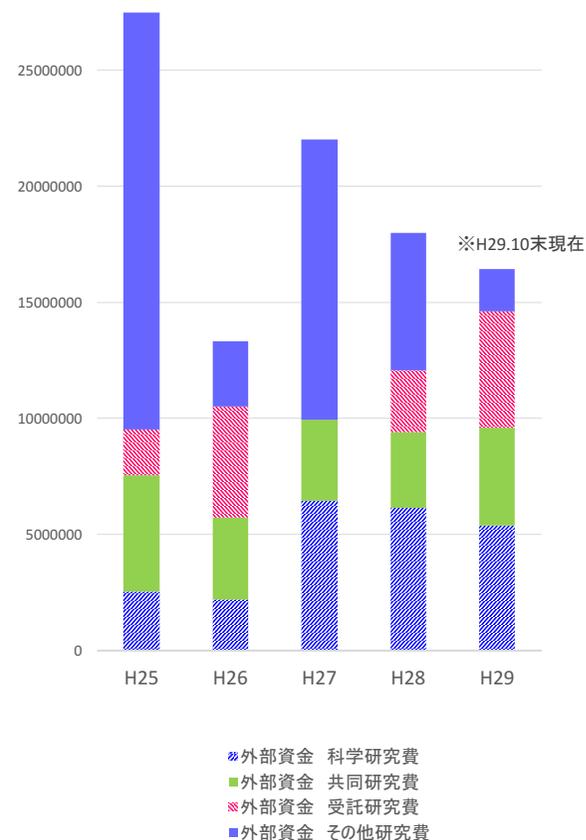
本学が標榜する「メディア表現」をアーカイブの対象に、①文化資源の知財化、②共有手法の開発、③知を社会循環する手法を研究し、学術領域 としての価値創出を目的とするプロジェクト

- COI拠点「感性とデジタル製造を直結し、生活者の創造性を拡張するファブ地球社会創造拠点」(国立研究開発法人化学技術振興機構)

3Dプリンターのようなデジタル工作機械により、メーカーではない一般の人々が多様な製品を製造する社会を想定し、そこで必要となる社会制度を知的財産権および製造物責任の視点から提言しています。

- 公益財団法人小川科学技術財団研究助成金

- 外部資金調達額



研究

- 共同研究と受託研究の件数はほぼ横ばいで推移しています。
- 移転以降は、共同研究の相談が増えています。

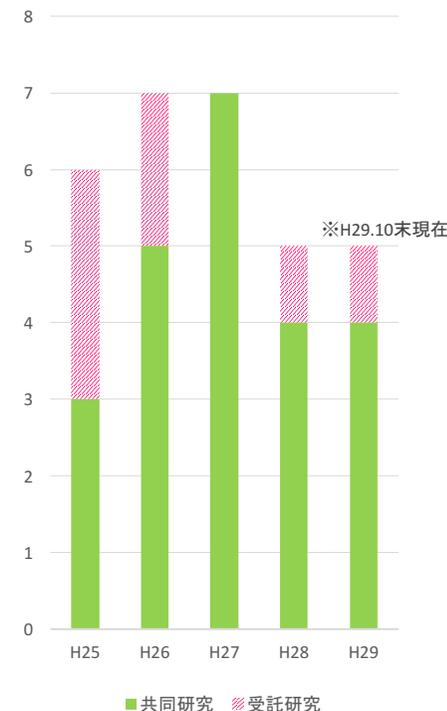
共同・受託研究（2017年度は10月末現在）

- ◇凸版印刷【受託研究】《松井准教授、伊村靖子講師》
 テーマ:メディア芸術所蔵情報の調査 ※「文化庁メディア芸術所蔵情報等整備事業」のメディアアート分野をIAMASにて実施。
- ◇電通《小林茂教授》
 テーマ:デジタルテクノロジーを使った地域社会の課題解決
- 2017年度 ◇ソニー《鈴木宣也教授、赤羽亨准教授》
 (平成29年度) 衣食住ネットワークプロジェクト
- ※10月末現在 ◇Rock'n Pool、ミホロ《金山智子教授、平林真実教授、古澤龍研究員》
 POOL JAM EXPO 2017 におけるPoolの新たな価値を創出するためのLED演出の研究
- ◇十六銀行《小林茂教授》(予定)
 紙媒体で運用している既存の企業間ビジネスマッチングサービスのタブレット用アプリ化による効率化・広域化の実現可能性及び課題に関する研究

- ◇パナソニック《鈴木宣也教授、赤羽亨准教授》
 テーマ:「防災」～災害時の安心安全の提供 ※あしたをプロトタイピングするプロジェクト(授業)の活動として実施。
- ◇アイシン精機《鈴木宣也教授、赤羽亨准教授》
 テーマ:新規事業創出のための新アイデア、技術創出 ※あしたをプロトタイピングするプロジェクト(授業)の活動として実施。
- 2016年度 ◇電通《小林茂教授》
 (平成28年度) テーマ:デジタルテクノロジーを使った地域社会の課題解決 ※卒業生ベンチャー企業(株)Gocco.と連携して実施。
- ◇凸版印刷【受託研究】《松井准教授、伊村靖子講師》
 テーマ:メディア芸術所蔵情報の調査 ※文化庁委託事業の一部分をIAMASにて実施。
- ◇グレイセル、TAB《金山智子教授、小林孝浩教授、James Gibson准教授》
 テーマ:根尾地区における共創手法を通じた地域再生の研究 ※根尾コ・クリエイション(プロジェクト)(授業)の活動として実施

- ◇パナソニック《鈴木宣也教授、赤羽亨准教授》
 テーマ:映像・コミュニケーション領域における新たなデザイン価値創造 ※あしたをプロトタイピングするプロジェクト(授業)の活動として実施。
- ◇マナビノタネ《鈴木宣也教授》
 テーマ:地域の集積的記憶の記録と想起の促進に関する研究 ※成果物は宮城県石巻市の復興まちづくり情報交流館で展示
- ◇AOLオンライン・ジャパン《小林茂教授》
 テーマ:オープンイノベーションの手法の一つであるハッカソン、メイカソンをより一般に普及させるための現状問題点認識と実施フローの確立
- 2015年度 ◇NTTラーニングシステム(ICC)《城一裕(元)講師》
 (平成27年度) テーマ:ICCにおけるメディアアート展示を通じたメディアやコミュニケーションのあり方の考察
 ※車輪の再発明プロジェクト(授業)の活動として実施
- ◇TRUNK《桑久保亮太准教授》
 テーマ:立体物のプレゼンテーションのための点光源を利用した新しい映像表現の研究 ※成果物はミラノサローネ(イタリア)で展示。
- ◇ローランドDG《小林茂教授》
 テーマ:APIを提供する工作機械の評価及びそれを適切な理解の元で普及させるための方法のデザイン並びにその実行
- ◇グレイセル、TAB《金山智子教授、小林孝浩教授、James Gibson准教授》
 テーマ:根尾地区における共創手法を通じた地域再生の研究 ※根尾コ・クリエイション(プロジェクト)(授業)の活動として実施

共同・受託研究件数



※ 共同研究 : 必ずしも研究資金の授受を問わず、人材交流や技術・施設の共用による研究であり、契約を締結したものの
 ※ 受託研究 : 官公庁、自治体や民間企業などから受託して行う研究

ー 2016年度の共同研究活動紹介

パナソニック株式会社AVCネットワーク社との共同研究

ー テーマ「防災」～災害時の安心安全の提供」

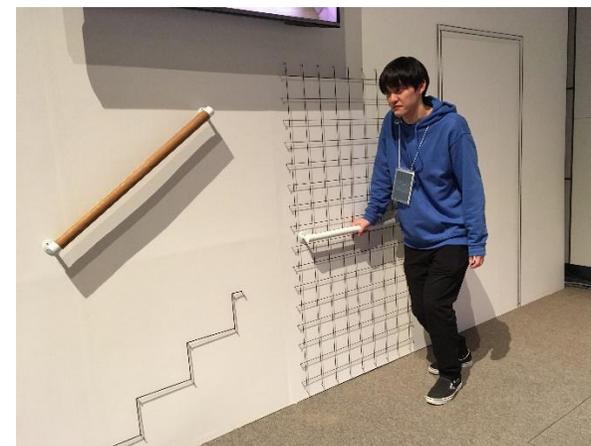
大規模な地震や水による災害による影響がある一方で、情報技術をそれらに用いる試みは多くありません。課題が山積している一方、行政による大規模な対応はあまり進んでいません。現状では対策は個人に委ねられており、地域や企業ベースの中規模な展開が求められているのではないのでしょうか。パナソニック株式会社との共同研究では、共同研究の大きなテーマを「防災」として出発しました。その中で「見守り」というキーワードを抽出し、日常の「いつも」と、災害という非常時の「もしも」、両方で使えるものを意識したプロトタイプ制作をおこないました。

『ペタッと巻けるセンサーを使った見守りシステム「ぺたログ」』

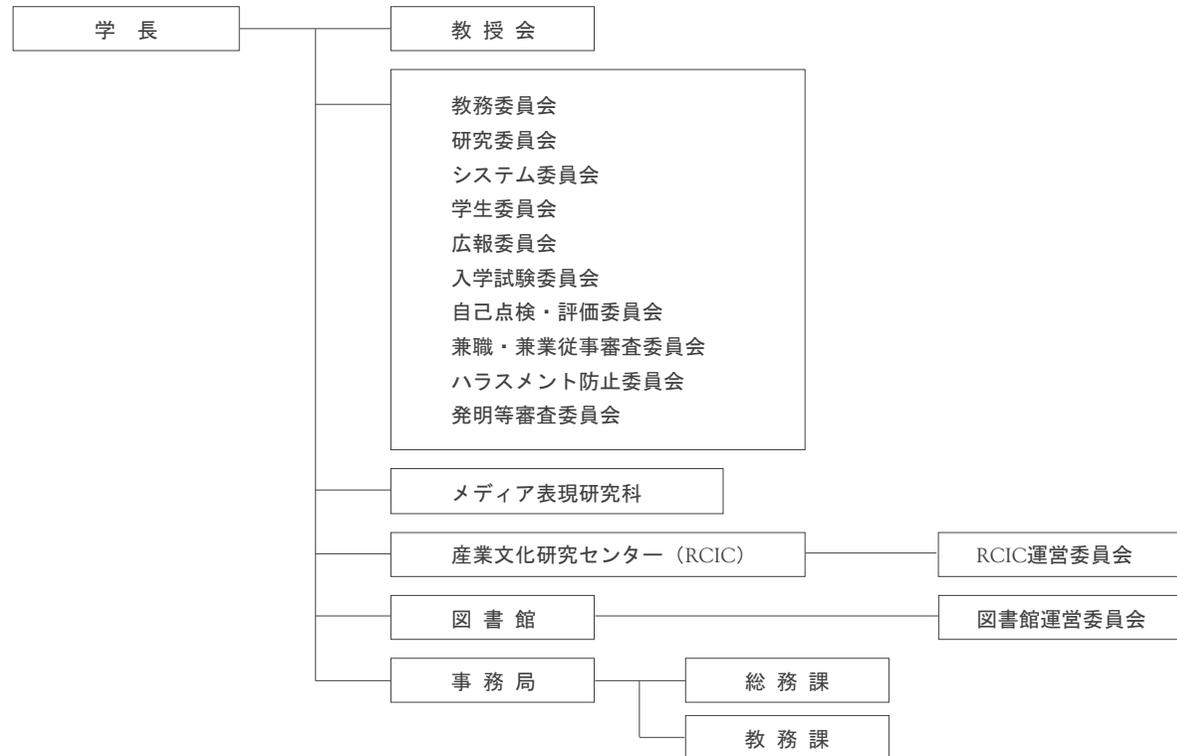
手すりやドアノブに簡単に設置できるセンサーを用いた見守りシステムです。見守っていたいけれど、ずっと近くにはいられない時、取得されたログを活用し、ホームネットワークやスマートフォンと連携して、見守りシステムとして活用することを想定しています。

2016年10月05日(水) - 2017年02月28日(火)

あしたをプロトタイプするプロジェクト
鈴木宣也教授、赤羽亨准教授



組織図



- 教職員数

	教授	准教授	講師	助教	教員合計 (左計)	事務局 職員	専門職等
大学院大学	13	5	1	0	19	10	11
(うち女性)	(1)		(1)		(2)	(4)	(5)

RCIC

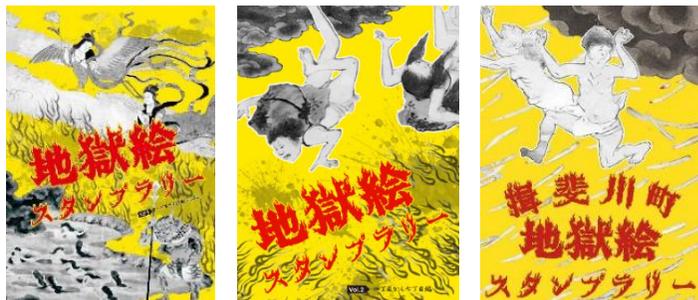
- 産業文化研究センター (Research Center Industrial Culture[RCIC])は、産官学連携業務、Webや印刷媒体による広報業務、イベントの企画・運営業務など、IAMASの連携および情報発信を主に行う拠点です。
- IAMASの研究成果を産官学連携や文化的活動を通して広く社会に活かし、様々な貢献を行っています。
- 近年では、RCIC研究員による制作・研究活動の成果が学会などでも評価されています。

地獄絵スタンプラリーvol.3

産業文化研究センターでは、揖斐川町で開催されるタウンフェスティバル、揖斐川ワンダーピクニック内で「地獄絵スタンプラリー vol.3」を実施し、約780名の方に来場いただきました。「地獄絵スタンプラリー」は、2015年より取り組んでいる地域連携活動です。揖斐川町で失われつつあった「地獄絵の拝観」の風習をヒントに企画した参加型イベントで、スタンプの絵柄は毎年更新し、3年参加すると全ての地獄絵巻物の場面を集めることができるものでした。

2017年05月21日(日) 10:00 - 17:00
三輪神社境内(岐阜県揖斐郡揖斐川町三輪1322)

金山智子教授、高見知里専門職、伊藤晶子専門職、後藤良太(修士2年)、飯島祥(修士1年)、工藤恵美(修士1年)、杉山一真(修士1年)、高尾俊介(2008修了)、大山千尋(2016修了)



アートまるケット「ツナがり ツナがる ツながれば」

2015年から岐阜県美術館館長である日比野克彦氏のディレクションによる企画展「アートまるケット」には、岐阜県美術館と岐阜県立の3つのアカデミー(国際園芸アカデミー、国際たくみアカデミー、森林文化アカデミー)、本学の協力により、新たな取り組みを進めています。

今回で3回目となる「アートまるケット」は、県内の福祉施設とツナがり、活動の様子を美術館で紹介することで、来館者にツナげていこうとするイベントです。美術館の庭には三角のシェードセイルがツナがって、太陽の日差しを和らげ、人のツナがる場として登場しました。

2017年08月25日(金) - 2017年11月03日(金・祝) 10:00 - 18:00
岐阜県美術館(岐阜県岐阜市宇佐4-1-22)

金山智子教授、小林孝浩教授、山田晃嗣准教授、IAMAS学生



POOL JAM EXPO 2017

体験参加型インスタレーション「泳げるナイトプール・アストロプール」を、POOL JAM EXPO との共催でPOOL JAM EXPO 2017にて発表しました。

この作品は、泳ぎで発生する揺らぎがプール内に浮かべた60個ライトと水中を漂う球体型デバイスが様々な色に光ります。プールの外からはもちろん、泳ぐ人には宇宙遊泳にも近いような不思議な没頭感が生まれます。2日間のイベントうち日の沈み始める18時から21時まで体験できます。この作品のディレクションを本学産業文化研究センターの古澤龍研究員が担当しています。また、プログラミングを修士1年の中路景暁さんが、制作を棚原みずきさん(修士1年)、荻原洋夢さん(修士1年)が担当しています。

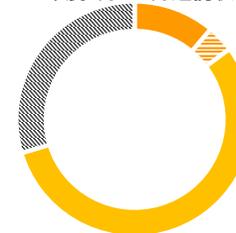
2017年08月27日(日) - 2017年08月28日(月) 18:00 - 21:00
TOKYO POOL LABO (東京都足立区花畑 4-33-4)
金山智子教授、平林真実教授、古澤龍研究員、IAMAS学生



- 「産業・地域連携成果報告2016」[IAMAS Annual Report]

IAMASの産業、文化、地域社会に関する取り組みについて、「産業・地域連携成果報告」にまとめ、発行しています。

- H29年度4月～9月連携状況

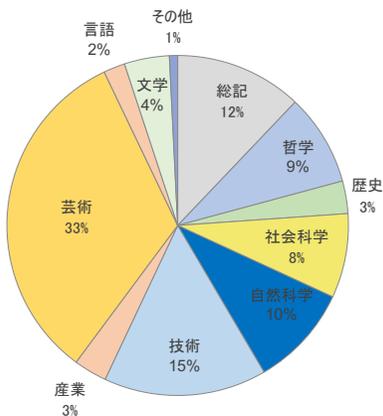


■ 共同研究 ■ 受託研究 ■ 地域連携 ◊ 相談

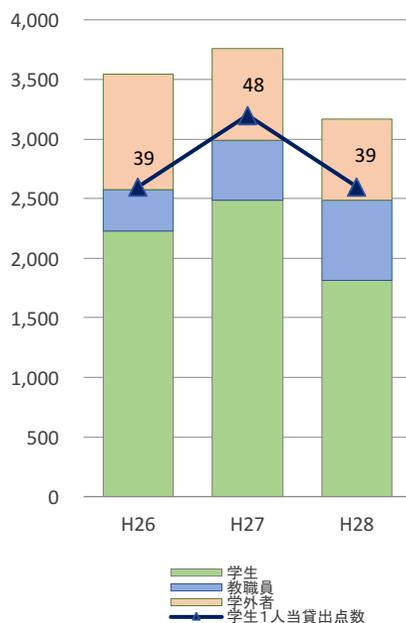
附属 図書館

- 教育研究支援
 - ・メディア表現の教育研究に資する資料を収集しており、蔵書構成では技術や芸術の分野の割合が大きくなっています。
 - ・利用は、年間貸出3,167点、調査相談129件など。学生1人当貸出39点は公立大学平均7.6点を大きく上回ります。
 - ・教職員の協力で「図書館便り」の発行や、定期的な新着図書案内のメール配信などをおこない、利用促進を図っています。
- 地域貢献
 - ・学外者の入館者数は移転後1,000人以上に増加。公開講座を毎週開催し、地域に開かれた図書館として機能しています。

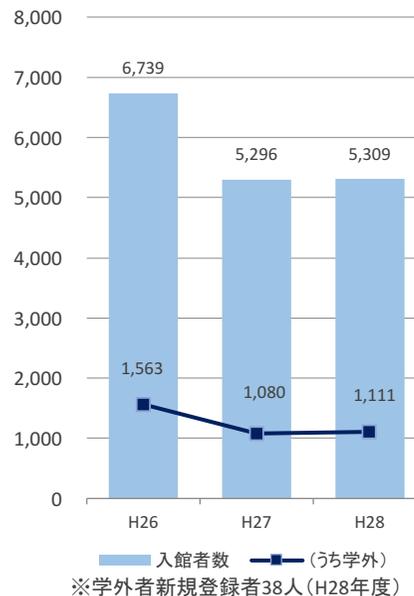
一 分類別蔵書割合



一 貸出点数



一 入館者数



一 「図書館便りvol.7」

- 特集: 金山智子
自著を語る/人生を変えた一冊/
学生に薦める一冊
- 館長コラム(読書の楽しみ)
- 図書館を活用する
("所蔵なし"でもあきらめない)
- お知らせ(蔵書検索のデザイン一新ほか)



一 蔵書数(H29.3現在)

図書	42,465 冊
視聴覚資料 (DVDなど)	3,160 点
雑誌	63種
データベース	4種
電子ジャーナル	6種

一 公開講座「今週の一冊」

IAMAS図書館プロジェクト(ウイークリーイベント)
毎週木曜 午後6時半
150回開催(H26～H29.10末)
参加者1,109人
※岐阜県図書館で13回開催(H27～H29)
小林昌廣教授

一 資料展示

「教養としてのフランス現代思想」(6～7月)
「まんが・漫画・マンガ」(8～9月)
「〈本〉の本」(10～11月)
「IAMAS刊行物」(7月～)



教育

- 毎年、新しいメソッド、テクノロジー、ツールの導入や、地域社会や環境を活用し、先端的な授業を展開しています。
- 2017年度は、基礎カリキュラムにおいて無線タグ付き加速度センサーを用いた幼児教育施設への展開、展示会エンジニアによる集中ワークショップなど、多様な試みをしています。
- 社会で活躍するIAMAS卒業生たちによるレクチャー群や国内外の研究者たちによるレクチャーの充実も図っています。

情報学基礎

約2週間にわたり、修士1年を対象とした「情報学基礎」を実施しました。今年の課題は、無線タグ付き加速度センサーを用いて身体動作を取得し、幼稚園の児童を対象に複数人が参加できる遊びを提案することです。この授業では「遊び」が本来持っている可塑性や柔軟性を意識することで園児の創造性や想像力ともつながる「遊び」を考えました。

これらの活動を通して情報工学的な技術の習得と共に、「遊び」が生み出される場に注目することを目指しました。(協力:大垣市)

2017年5月2日(火) - 2017年5月19日(金)

安藤泰彦教授、小林孝浩教授、山田晃嗣准教授



メディア表現基礎

修士1年を対象とした「メディア表現基礎」をギャラリー1、ギャラリー2で実施しました。「メディア表現基礎」は作品の制作を通し、メディア表現の基礎を技術と考え方の両面から習得する導入科目です。

今年度は昨年度に引き続き、展示会エンジニアの金築浩史さんと西野隆史さんをゲスト講師に迎え、ビデオプロジェクターを素材としたインスタレーションの制作を題材に授業が進められました。

2017年4月25日(火) - 2017年4月28日(金)

赤羽亨准教授、桑久保亮太准教授



－ モチーフワーク前半

新1年生を対象にした「モチーフワーク(前半)」をギャラリー1、ギャラリー2で実施しました。「モチーフワーク(前半)」は、IAMASに入学したばかりの修士1年が対象となります。まずはそれぞれがどのようなモチベーションでIAMASにやってきて、そしてIAMASではどのようなことをめざし、さらにIAMASを修了してからどのような道を進むのか、いわばIAMASという場所・時間を起点として、そこから自身の活動や研究・制作を定点観測するといった視点から、全体のプログラムが構築されています。全体のテーマは「プレゼンテーションのちから」でした。

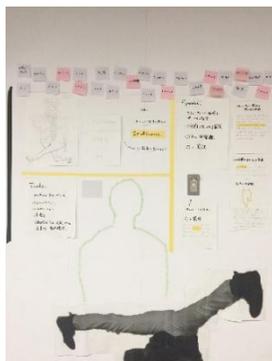
学生たちが次第に自身(の制作や研究)に目を向け、意識を潜行させ、同時に他者(隣の学生の「壁画」)に関心をもち、主観的な意見を「公的に」さしはさむことで、自身の言説が客観化されてゆくプロセスを感じることができるようになることも目指しました。

2017年4月17日(月) - 2017年4月21日(金)

小林茂教授、小林昌廣教授、前田真二郎教授、前林明次教授、吉田茂樹教授、赤羽亨准教授、伊村靖子講師



講師:安田登さん
下掛り宝生流ワキ方楽師/
ロルファー(ロルフィングの習得者)



－ プロジェクト技術演習(レーザー)

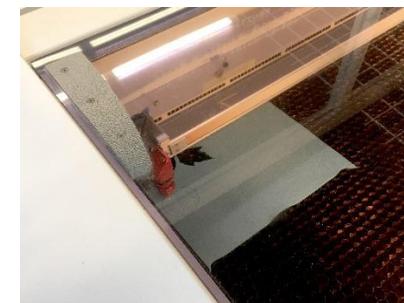
「プロジェクト技術演習(レーザー)」をイノベーション工房で実施しました。「プロジェクト技術演習」は、木工・金工加工などの実践的なスキル習得・デジタル工作機器の利用方法を学ぶことを目的としたオムニバス形式の科目です。

主に修士1年が研究活動で学校環境を利活用するために受講します。

「プロジェクト技術演習(レーザー)」は、赤外線域のレーザー光線を材料に照射して切断や彫刻加工するレーザー加工機を対象としています。

2017年4月24日(月)

鈴木宣也教授、会田大也非常勤講師



研究

プロジェクト型研究:

- IAMASの研究の中心の一つにプロジェクト研究があり、研究の関心や方向性が示されます。これからの社会における創造や新しい社会を創るデザインをテーマにした研究が増えています。
- プロジェクト研究では、広い視野と企画力、組織力、加えてアイデアを実現に導くマネジメント能力などを身につけることを目指します。

新しい表現

アートを／で考える

HD II 高精細映像技術を用いた表現研究

これからの創造のためのプラットフォーム

NxPC.Lab あたらしいTOY

図書館プロジェクト

移動体芸術 体験拡張環境

たるてつII

Craft, Fabrication, Sustainability

場所・感覚・メディア

福祉の技術

根尾コ・クリエイション

あしたをプロトタイプ化する
ものづくりオープンメソッド

未来と社会

デザイン・ものづくり

あいちワークショップ・ギャザリング～こどもとアートとのづくり

造形あそびから電子工作、プログラミング、メディア・アートまで、子どもから大人まで楽しめる「あいちワークショップギャザリング」に出展しました。

このイベントには、鈴木宣也教授と卒業生の富塚裕美さん(2016年修了)らのグループによる「つみきでえいご」や、工藤恵美さん(修士1年)、野呂祐人さん(修士1年)による「作って話そう!モトワークファクトリー」、Kei Minouraさん(修士1年)による「カラダ in デジタル」が出展されました。

2017年08月19日(土) 10:00 - 17:00
 相山女学園大学星ヶ丘キャンパス
 あしたをプロトタイプングするプロジェクト
 鈴木宣也教授、赤羽亨准教授



Interim Report

IAMASを中心に展開される NxPC.Lab(新次元多層メディア的クラブ体験研究室)のスパインアウトとも言えるプロジェクト「Interim Report」。

2017年07月17日(月・祝) / Circus Tokyo(東京都渋谷区渋谷3丁目26-16 第五叶ビル)
 NxPC.Labプロジェクト / 平林真実教授

[第20回文化庁メディア芸術祭協賛事業]

大音響システム空間内部に構成する、先端メディアテクノロジーを通じて拡張された音響体験、電子音楽、複合現実感を用いたインタラクティブコミュニケーションに関する研究成果を公開する企画を多摩美術大学情報デザイン学科と共催しました。過去のメディア芸術祭で受賞したメディアアーティストの演奏、人工知能、携帯デバイスデータを用いた参加型演奏などの先駆的な研究内容を公開しました。

2017年09月29日(金) / Circus Tokyo(東京都渋谷区渋谷3丁目26-16 第五叶ビル)
 NxPC.Labプロジェクト / 平林真実教授

[7/17] dropcontrol/DUO + Ayumu Nagamatsu(修士2年) / 荻原洋夢(修士1年) + 加藤(修士2年) / Ghost In the Space / 日比野光紘(修士1年) + いいじま(修士1年) / ひつじ / メゾネットメゾン + Scott Allen / SunaoSystem + Ayumu Nagamatsu(修士2年) / 田所淳 / ときめきサイエンス + 時里充



IAMAS ARTIST FILE #05 前林明次「場所をつくる旅」

岐阜県美術館と、本学にゆかりのあるアーティストを紹介する企画展『IAMAS ARTIST FILE』を、2013年度(H25年度)から毎年開催しています。第5弾となる今回は、「場所をつくる旅」と題して、前林明次教授が展示を行いました。

2017年7月22日(土) - 8月20日(日) 10:00 - 18:00(最終入場17:30)

岐阜県美術館展示室3

アートを／で考えるプロジェクト

前林明次教授、小林昌廣教授、松井茂准教授、伊村靖子講師

展覧会メインビジュアル・広報デザイン 大山千尋(2016修了)

【会期中イベント・関連企画】

- 「場所をつくる旅」トークイベント at nakaniwa

2017年7月22日(土) 19:00 - 21:00(18:30開場)

nakaniwa(岐阜県岐阜市吉野町3-17)

菅啓次郎氏(詩人、比較文学者) × 小林昌廣教授(身体論) × 前林明次教授

- 「場所・感覚・メディア」

2017年7月23日(日) 14:00 - 16:00

岐阜県美術館講堂

前林明次教授 × 伊村靖子講師(芸術学) × 西山恒彦氏(岐阜県美術館学芸員)

- 「記録・アート・境界」

2017年7月30日(日) 14:00 - 16:00

岐阜県美術館講堂

川瀬慈氏(映像人類学・国立民族学博物館准教授) × 前林明次教授

- 「音・場所・表象」

2017年8月11日(金・祝) 14:00 - 16:00

岐阜県美術館講堂

前林明次教授 × 松井茂准教授 × 柳沢英輔氏(フィールドレコーディスト・同志社大学文化情報学部助教)

- 「フィールドの音を聴くLIVE」(関連企画)

フィールド録音をベースに映像、音響作品を展開する両者が、お互いに音源を持ち寄り、トークも交えつつ即興的にライブを行いました。

2017年08月11日(金・祝) 19:30 -

ピッカフェ(岐阜県岐阜市弥生町10 やながせ倉庫202)

柳沢英輔氏 × 前林明次教授



【IAMAS ARTIST FILE back #】

#04 ALIMO・若見ありさ「描く・動く／芸術とアニメーション」

#03 BEACONプロジェクトチーム「BEACON 2015 LOOK UP! みあげてごらん」

BEACONプロジェクトチーム・伊藤高志(映像作家)、稲垣貴士(サウンド制作・研究)、

吉岡洋(美学・情報芸術論)、KOSUGI ANDO(小杉美穂子、安藤泰彦)(現代美術)

#02 前田真二郎・齋藤正和「記録と行為／映像表現の現在形」

#01 三輪眞弘「逆シミュレーション音楽の世界」

人工知能美学芸術展

Artificial Intelligence Art and Aesthetics Exhibition

”人工知能は芸術創造の分野にまで侵蝕するのか。人工知能に美意識が芽生え、自律的に芸術を創作する未来はあり得るのか。”視覚芸術分野を中心に、音楽、文学、コンセプチュアルアートから、広く知能を問う研究発表までも含め、世界初となる「人工知能=AI」の総合芸術展に三輪眞弘教授が参加しました。

【機械美学音楽】 2017年11月3日(金・祝)

Part 1: 三輪眞弘教授

「みんなが好きな給食のおまんじゅう」

「虹機械」はじまりのうた ほか

2017年11月3日(金・祝) - 2018年1月8日(月・祝) 無休(年末年始)
沖縄科学技術大学院大学[OIST] 沖縄県国頭郡恩納村字谷茶1919-1
三輪眞弘教授



IAMCR2017 - 第60回 国際メディアコミュニケーション学会

IAMCR2017(第60回国際メディアコミュニケーション学会)がカタルヘナで開催され、コミュニケーションポリシー&テクノロジー部門にて、金山智子教授が「Community Radio Policy in Japan-Current Status and Future」と題した研究論文を発表しました。

2017年07月16日(日) - 2017年07月20日(木)

IAMCR2017(コロンビア共和国)

金山智子教授



アイデアスケッチ - アイデアを(醸成)するためのワークショップ実践ガイド 発刊

IAMASで培われた視覚的ブレインストーミング手法「アイデアスケッチ」のノウハウを、誰もが実践できるようわかりやすく解説した本をIAMAS教員4人が執筆。

多様なバックグラウンドを持つ学生と教員が集まり、専門分野ごとに隔たれることなく領域横断的にカオスのような協働のなかからプロジェクトベースの研究課題に取り組んでいる模様が掲載されています。

2017年10月20日(金)

James Gibson准教授、小林茂教授、鈴木宣也教授、

赤羽享准教授



プロセスからデザインすることで、アイデアとチームを同時に醸成できる



研究

- 授業やプロジェクトなどを通して学生が制作したものを、積極的に発表し、高い評価も得ています。

- [受賞] (主なもの) ※受賞:2016年度～2017年度 (在学生は受賞当時の学年)

[2017年度]

- チームOMORI K OMORI
 - 石郷祐介(修士2年)、市野昌宏(2014年修了)、古郡唯希(2016年修了)、中村親也(2015年修了)
 - 「パソコンコントローラー」ハッカソンイベント「HACK・CHU!」最優秀賞
- 安野太郎(2004年修了)
 - 《THE MAUSOLEUM 一太霊廟》清流の国ぎふ芸術祭-Art Award IN THE CUBE 高橋源一郎賞
- 水無瀬翔(2012年修了)
 - 《DEMO DEPO イン・ザ・キューブ支店》清流の国ぎふ芸術祭-Art Award IN THE CUBE 鷺田清一賞
- 川崎鋼平(2004年卒業)
 - 「Singing Nature」アジア太平洋広告祭 ADFEST 2017 メディア部門(Media Lotus) Gold賞
- 相馬一夫(2001年卒業)、林洋介(2008年修了)
 - 「エモーションズ」第3回ジオ・コスモスコンテンツコンテスト ライブコンテンツ部門入選
- 瀬長孝久(2016年修了)
 - 「HBD/RIP」第3回ジオ・コスモスコンテンツコンテスト ライブコンテンツ部門入選
- 若見ありさ(2000年卒業)、松本祐一(音楽)(2003年卒業)
 - 「Birth-おどるいのち」映文連アワード2017 部門優秀賞と賞(個人賞)



相馬一夫・林洋介《エモーションズ》



若見ありさ・松本祐一《Birth-おどるいのち》

[2016年度]

- 綿貫岳海(修士1年)
 - 「iPod Jockey」International Students Creative Awards 2016 [デジタルコンテンツ部門]優秀賞
 - 「A/D Clock」第22回学生CGコンテスト ノミネート
 - 「A/D Clock」App Art Award 2016受賞
 - 「iPod Jockey」北九州デジタルクリエイターコンテスト2017入選
 - 「crawlMob_2」北九州デジタルクリエイターコンテスト2017入選
- 高坂聖太郎(修士1年)
 - 「upland」第2回ところざわ学生映画祭グランプリ受賞(監督:高坂聖太郎)
- 加藤明洋(修士1年)
 - 「ツメノアカプロジェクト」WIRED CREATIVE HACK AWARD 2016 ファイナリスト
- 菅野創[菅野創+yang02](2009年修了)
 - 「形骸化する言語」第20回文化庁メディア芸術祭アート部門 審査委員会推薦作品
- 大野睦昌(修士2年)
 - 「論理憲法」第20回文化庁メディア芸術祭アート部門 審査委員会推薦作品

[2016年度]

- 真鍋大度(2004年卒業)(ほか学外)
 - 「chains」第20回文化庁メディア芸術祭アート部門 審査委員会推薦作品
- 真鍋大度(2004年卒業)、石橋素(2001年卒業)(ほか学外)
 - 「24drones」第20回文化庁メディア芸術祭エンターテインメント部門 審査委員会推薦作品
- 安藤充人(2016年修了)、菅沼聖(2009年卒業)、伊藤隆之(2003年卒業)、城一裕講師
 - 論文『ofxEpilog: An openFrameworks addon for controlling an Epilog laser cutter』
 - ICDF 2016 : 2nd International Conference on Digital Fabrication Best Paper Award
- 島影圭祐(2016年修了)
 - 「OTON GLASS」国際エンジニアリングアワード「第11回 ジェームズダイソンアワード2016」国内審査3位
 - 「OTON GLASS」ハードウェアコンテスト GUGEN 2016 優秀賞受賞
 - 「OTON GLASS」Good Job! Award 2016入選
 - 「OTON GLASS」YouFab Global Creative Awards 2016 グランプリ、ヤマハ賞(ダブル受賞)
 - 「日本を思索する」第22回学生CGコンテスト 評価員賞(土居伸彰選定)
- 篠田幸雄(修士2年)
 - 「color2vibs」国際エンジニアリングアワード「第11回 ジェームズダイソンアワード2016」国内審査5位
 - 「教材自作部」Good Job! Student Award 2016入選
- 高見安紗美(修士2年)、具志堅裕介(修士2年)、後藤良太(修士2年)、市野昌宏(2014年修了)、大石桂誉(2015年修了)
 - 「trans-floor! - play ground」アートと遊びと子どもをつなぐメディアプログラム2016[汗かくメディア賞]
- 松本祐一(2003年修了)(音楽担当)
 - 「Birth-つむぐいのち」映文連アワード2016受賞 優秀企画賞
- 川崎鋼平(2004年卒業)
 - 「Kit Mail Hologram」Clio Awards Gold受賞
 - 「Kit Mail Hologram」Spikes Asia 2016ミュージック部門Music Spike(Gold)受賞
 - 「NO SALT RESTAURANT」第20回文化庁メディア芸術祭エンターテインメント部門優秀賞受賞
- 川崎鋼平(2004年卒業)(ほか学外)
 - 「NO SALT RESTAURANT」第20回文化庁メディア芸術祭エンターテインメント部門優秀賞
- 大久保雅基(2016年修了)
 - 「『どこかの日常』4人のスピーカーとオペレーターのための」第22回学生CGコンテスト ノミネート
- Scott Allen(2016年修了)
 - 「spring」第20回岡本太郎現代芸術賞入選
- GIF(Generative Idea Flow)(土田哲哉(2007年修了)、金箱淳一(2008年修了))
 - 「スワイプエプロン」ハードウェアコンテスト GUGEN 2016 優秀賞受賞
- 山口伊生人(修士1年)
 - 「フリーマジックで構成された立体物の集合を、闊およびメディアとすることで可能となる 空間と人、そして人と人との関係性に関する試行」
- マジックテープアイデアコンテスト2016 クリエイティブ部門優秀賞

清流の国ぎふ芸術祭 – Art Award IN THE CUBE 2017

企画公募展「清流の国ぎふ芸術祭 – Art Award IN THE CUBE 2017」にて、卒業生の安野太郎さん(2004年修了)が高橋源一郎賞を、水無瀬翔さん(2012年修了)が鷲田清一賞を受賞しました。

出展作品は4月15日から6月11日まで、岐阜県美術館で展示されました。4月15日には、審査員と受賞者による「O JUN・中原浩大×大賞・審査員賞受賞者クロストーク」が開催されました。また、開催期間中は審査員と参加作家を交えたアーティストトークやワークショップなど、多くのイベントが開催されました。

この公募展の企画委員を安藤泰彦教授、審査員を三輪眞弘学長が務めました。

2017年04月15日(土) - 2017年06月11日(日)

10:00 - 18:00
岐阜県美術館(岐阜市宇佐4-1-22)



水無瀬 翔《DEMO DEPO イン・ザ・キューブ支店》



安野 太郎《THE MAUSOLEUM –大霊廟–》

マジックテープアイデアコンテスト2016

マジックテープアイデアコンテスト2016にて、山口伊生人さん(修士2年)による作品「フリーマジックで構成された立体物の集合を、闊およびメディアとすることで可能となる 空間と人、そして人と人との関係性に関する試行」が、クリエイティブ部門優秀賞を受賞しました。



ジャパン-ネス Japan-ness 1945年以降の日本の建築と都市計画

原田和馬さん(修士2年)がボンピドゥ・センター・メッス(フランス)で開催される「ジャパン-ネス Japan-ness 1945年以降の日本の建築と都市計画」に映像作品と写真作品を出品します。写真は高さ幅6m×4mの壁面全体に設置されます。

2017年09月09日(土) - 2018年01月08日(祝・月)
ボンピドゥ・センター・メッス(フランス)
フレデリック・ミゲルー(ボンピドゥ・センター パリ国立近代美術館副館長)



INTERNATIONAL STUDENTS CREATIVE AWARD 2017

国内外の学生映像コンテンツ・デジタルコンテンツのクリエイティブアワード INTERNATIONAL STUDENTS CREATIVE AWARD 2017 デジタルコンテンツ部門において、綿貫岳海さん(修士2年)の「nodeHands」と、永松歩さん(修士2年)の「Leaves」がノミネート作品として選出されました。

12月1日(金)・2日(土)にグランフロント大阪で受賞作品の公開審査と展示会が行われます。

2017年12月01日(金) - 2017年12月02日(土)
グランフロント大阪



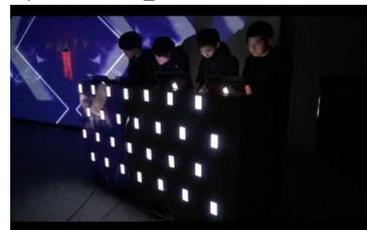
綿貫岳海《nodeHands》



永松歩《Leaves》

北九州デジタルクリエイターコンテスト2017

北九州デジタルクリエイターコンテスト2017にて、綿貫岳海さん(修士2年)による「iPod Jockey」「crawlMob_2」の2作品が入選しました。



Dubai Design Week 2017

毎年Dubai Design Weekの一環として開催される世界有数の画期的な作品展。2015年の創業以来、世界最大の学生集會に成長し、3回目となる2017年度は受賞歴のあるキュレーターであるBrendan McGetrick氏が選んだ40か国・6大陸を代表する90の世界有数の主要大学がConnect、Empower、Sustainのテーマでグループ化された200のプロジェクトに参加します。本学からは、永松歩さん(修士2年)が作品展示を行います。

2017年11月13日(月) - 2017年11月18日(土)
ドバイ(アラブ首長国連邦)



IAMAS 20th

情報科学芸術大学院大学[IAMAS]は、県立国際情報科学芸術アカデミー開学から2016年度に20年を迎えました。これを記念して、20年を振り返り、また、今後のIAMASについて考えるイベントを各地で実施しました。

一 IAMAS創立20周年記念式典

本学は、1996年4月に開学した岐阜県立国際情報科学芸術アカデミーの創立から数えて2016年度で20周年を迎えました。創立20周年を記念して式典を実施するとともに、本学の20年間のあゆみを紹介する企画展示を行いました。

- IAMAS20周年記念式典

2017年02月23日(木) 11:00 - 11:30

11:00～11:30 IAMAS20周年記念式典

- ・主催者あいさつ(知事)
- ・来賓あいさつ(大垣市長)
- ・IAMAS20年のご紹介(IAMAS学長)
- ・テープカット

11:30～ 報道機関・関係者向け内覧会



- 『振りかえるIAMASの20年』展

これまでの本学の歩みをパネル・映像等で紹介する企画展示を「IAMAS2017第15期生修了研究発表会・プロジェクト研究発表会」会場前にて開催しました。

2017年02月23日(木) - 2017年02月26日(日) 10:00 - 18:30 (初日のみ11:00-)

産業文化研究センター

金山智子教授、瀬川晃准教授、高見知里技術支援専門職、伊藤晶子情報支援専門職



一 IAMAS 20th関連イベント

- あいちトリエンナーレ2016 レクチャープログラム

「メディア・アートとは何か？IAMAS20周年から考える」

開学当初からIAMASに関わる面々がメディア・アートの20年を総括するシンポジウムを開催しました。

パネリスト:三輪真弘教授、松井茂准教授、吉岡洋京都大学教授ほか

2016年10月10日(月・祝)14:00 - 16:30

名古屋市美術館2階講堂(名古屋市中区栄二丁目17番25号)



- 文化庁メディア芸術祭20周年企画展「変える力 連携企画」

IAMASは、文化庁メディア芸術祭の変遷と共に、テクノロジーの進化による表現の変化を問い、メディア表現研究を展開してきました。近年「メディアパフォーマンス」というタームが、電子音楽を新たな表現史のコンテクストに再編しつつあります。メディアアートをめぐる研究の現在を問い、未来を議論しました。

[第1部] 三輪真弘作品演奏会(敬称略)

三輪真弘教授

演奏: 太田 真紀(ソプラノ)、寒川 晶子(ピアノ)

テクニカル・サポート: 松本 祐一(2003年卒業)

音響エンジニア: ウェヤマトモコ

ステージ・マネージャー: 後藤天(2013年修了)

[第2部] シンポジウム演奏会

登壇者: 川崎 弘二氏(電子音楽研究)、三輪 真弘教授、伊村 靖子講師

モデレーター: 松井 茂准教授

2016年11月6日(日)午後

(文化庁会期: 2016年10月15日(土) - 11月6日(日)の23日間の最終日)

アーツ千代田 3331(東京都千代田区外神田6丁目11-14)



文化庁
メディア芸術祭
20周年企画展
変える力

JAPAN MEDIA ARTS FESTIVAL
20th Anniversary Exhibition Power to Change

IAMAS × ラフォーレ原宿

「Calculated Imagination」展 ～IAMAS創立20周年記念企画展～

メディアアートの分野で世界的に知られるIAMASは、1996年に岐阜県で創設されました。2016年に20周年を迎えたIAMASは、情報技術の革新とともに大きく変容してきた社会と並走するかたちで、先端的技術と芸術的創造との融合を理念に掲げながら、ユニークな教育研究活動を行ってきました。その中で、多くの国内外で活躍するアーティストやデザイナー、エンジニアや研究者を輩出してきました。

企画展「Calculated Imagination」展では、6人のアーティストによるメディアアート作品の展示を行いました。岐阜県大垣市を経由したそれぞれの出展作家の想像力は、その着地点さえもシミュレーション可能な世界へと変わっていく只中に、逆説として予測不可能なものへと開かれた世界の輪郭を描き出そうとしています。

- 参加アーティスト(敬称略):

クワクボリョウタ(2001年卒業)、三原聡一郎(2006年修了)、菅野創(2010年修了)、山城大督(2004年卒業)、村山誠(2009年修了)、石塚千晃(2015年修了)

- 期間中イベント(敬称略):

- アーティストトーク

クワクボリョウタ、三原聡一郎、石塚千晃 × 伊村靖子講師

2017年03月11日(土) 14:00 - 16:00

菅野創、山城大督、村山誠 × 安藤泰彦教授

2017年03月12日(日) 14:00 - 16:00

- クラブイベント

「NxPC.Live in Tokyo」

2017年03月10日(金) 18:00 - 21:00

関連イベント「NxPC.Live vol.27」(CIRCUS TOKYO)

2017年03月11日(土) 22:00 - 29:00

- ライブパフォーマンス

「IAMASONIC BEYOND」

2017年03月11日(土) 18:00 - 21:00

- スキャニングセッション

「3Dスキャニング技術を用いたインタラクティブアートの時空間アーカイブ」

2017年03月11日(土) 会期中随時

2017年03月10(金) - 2017年03月16日(木) 11:00 - 21:00

ラフォーレミュージアム原宿(東京都渋谷区神宮前1-11-6 ラフォーレ原宿6階)

金山智子教授、伊村靖子講師、高尾俊介(元) 研究員、安藤泰彦教授

展示会メインビジュアル・広報デザイン 田中良治(2000年卒業)



山城大督

《HUMAN EMOTIONS／ヒューマン・エモーションズ》

- 三原聡一郎

「空白」のプロジェクト「鈴」(2013)は、作品に内蔵された放射線センサーが感知した瞬間に鳴るガラスベルの音が主題となっている。ガラスドームの中に刺き出しのまま設置されている機構には、音を聴く体験を特別なものにする喚起力がある。

- 山城大督

《HUMAN EMOTIONS／ヒューマン・エモーションズ》(2015)は、会期直前に山城が設定した空間に1歳と5歳と7歳の3人の子どもたちを登場させ、複数台のカメラで撮影した映像を同じ場で「再生可能な空間」として展示した映像インスタレーション作品である。ここで言う「再生可能な空間」とは社会を模倣した空間と言えよう。人間が自我の芽生えや社会性を身につけていく過程でのコミュニケーションや感情のあり様を考えさせる作品である。

- クワクボリョウタ

《風景と映像(view or vision)》(2016)は、近年展示されてきた《10番目の感傷(点・線・面)》(2010)のリミックス版とも言える作品で、模型列車が「風景」を照らし出すという基本設計は共通している。本作で、2台の列車を光源として映し出される像は、別々に動きながら時に重なり、ダイナミックな映像として立ち現れる。「見る」と自体を問う作品である。

- 村山誠

《Lathyrus odoratus L. - top view - b》2012年

《Sunflower - i - bc》2008年

《Botech Composition 1-MV》2014年

《Botech Composition 1-MV》(2014)は、採取した花々のスケッチを重ね、自ら解剖した花の断片をルーペや顕微鏡で徹底的に観察した後、その構造をCG上でモデリングしていくことによって得られる植物のヴィジョンである。過去作品とあわせて展示した。

- 石塚千晃

《The Portrait of daucus carota》(2015)において、「野菜のニンジン」、その野生化した姿としての「ノラニンジン」、そして自然環境では存在し得ないニンジンのある姿を組織培養によって現前させた「細胞塊(カルス)」の形態観察を行っている。人間の経済的・美的価値観を決定づけているもの、自然と人工の境界を問う。

- 菅野創+やんツ

《Asemic Languages (形骸化する言語)》2016年《Asemic Languages (形骸化する言語)》(2016)は、人工知能によって、複数の人が書き記した文字の形状とパターンだけを学習し、意味をなさないが文字のように見える線を書き連ねていく作品である。文字とは本来、伝達や記録を目的とするが、その意味を読み取ることなく学習され生成される線には、それぞれの書き手の手癖の痕跡だけが浮かび上がる。



三原聡一郎《 鈴 》

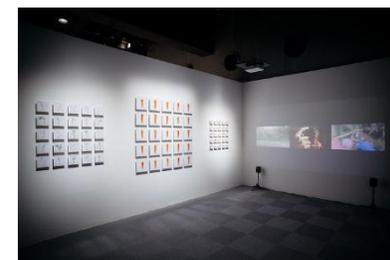
撮影:丸尾隆一(2002年卒業)



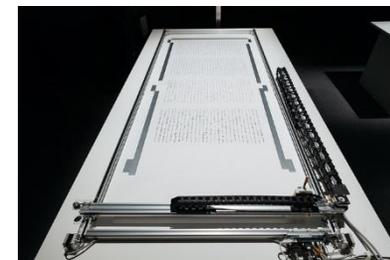
クワクボリョウタ《風景と映像》



村山誠《Botech Composition 1-MV》



石塚千晃《Portrait of Daucus carota》



菅野創+やんツ

《Asemic Languages (形骸化する言語)》

研究

授業やプロジェクトなどを通して学生が研究・制作したものを、積極的に発表し、高い評価も得ています。

現代アートの鑑賞事業2017「うごき→あそび」

IAMASメディアサイト研究会(卒業生の市野昌宏さん(2014年修了)、大石柱誉さん(2015年修了)、具志堅裕介さん(2016年修了)、後藤良太さん(修士2年)、高見安紗美さん(修士2年))による「trans-floor!-play ground!」、市野昌宏さん(制作協力:金原佑樹さん(2014年修了)、二宮諒さん(2014年修了))による「おスイッチ!」が展示されました。

遊びをテーマにした作品展示を行い、メディア技術を用いて、「あるく」「とまる」「ふれる」といった、日常の動作を「遊び」に変換する試みがされました。

2017年08月05日(土) - 2017年08月13日(日) 10:00 - 19:00
ゆめたろうプラザ ギャラリー(愛知県知多郡武豊町大門11)



個展ひらいてごめんなさい展

綿貫岳海さん(修士2年)による展示「個展ひらいてごめんなさい展」が、10月22日(日)東京・杉江画廊にて開催されました。修士研究の一環として1日限りの作品展示を行いました。

2017年10月22日(月) 10:00 - 17:00
杉江画廊(東京都中央区銀座7-7-1 銀座幸伸ビル3F)



綿貫岳海《nodeHands》

Ars Electronica 2017

オーストリアのリンツで開催される芸術・先端技術・文化の世界的な祭典「Ars Electronica 2017」において、Campus Exhibition内で留学提携校Kunstuniversitat in Linz "Interface Culture"が行う企画展示に、審査に通過した永松歩さん(修士2年)が作品「Leaves」の展示を行いました。

2017年09月07日(木) - 2017年09月11日(月) 10:00 - 17:30
Ars Electronica Center(オーストリア)



Ars Electronica Center

Heterogeneous

メディアとしての路上/路上としてのメディアをテーマにした企画展「Heterogeneous」を、浜田卓之さん(修士2年)、杉山雄哉さん(修士2年)、卒業生の山本美里さん(2016年修了)、おしまたくろうさん(2016年修了)が出演し、最終日に開催されるライブイベントには、卒業生の上田真平さん(2016年修了)、おしまたくろうさんらが出演しました。この展覧会のメインビジュアル・広報物デザインを卒業生の嶋田元菜妃さん(2016年修了)が担当しています。

2017年08月24日(木) - 2017年09月02日(土) 10:00 - 18:00
京都精華大学内 ギャラリーフール(京都市左京区岩倉木野町137)



京都銭湯芸術の祭り MOMOTARO 二〇一七

竹村望さん(修士2年)が実行委員・制作を担当する「京都銭湯芸術の祭り MOMOTARO 二〇一七」が、8月13日より京都市内の銭湯を会場に開催されました。

2014年より「銭湯とはどういう場所か?」をテーマに、銭湯芸術という新たな領域を開拓してきた京都銭湯芸術祭。3度目となる今回は「銭湯芸術:混交」をキーワードに、お盆の京都市内各地でパフォーマンス、展示、ワークショップ、流しそうめんが実施されました。

イベントの最終日には、本学の非常勤講師で京都大学こころの未来研究センター特定教授の吉岡洋さんのクロージングトークも行われました。

このイベントのメインビジュアル・広報物のデザインを栗田真悟さん(修士1年)が担当しています。

2017年08月13日(日) - 2017年08月20日(日)
平安湯(京都市左京区)玉の湯(京都市中京区)、
錦湯(京都市中京区)、梅湯(京都市下京区)



PLAY! WATER(S) ープレイ! ウォーターズ

「水」をテーマにした体験型アート×サイエンスの展覧会、「PLAY! WATER(S) -プレイ! ウォーターズ」に、IAMAS在校生・卒業生からなるプロジェクトチーム「IAMASメディアサイト研究会2017」や、卒業生の田中良治さん(2000年卒業)、柏木恵美子さん(2008年卒業)が所属するSemitransparent Design(セミトランスパアレント・デザイン)、卒業生の田部井勝さん(2007年修了)が所属するアトリエオモヤが作品を展示しました。メインビジュアル・広報デザインは井口仁長さん(1999年卒業)が担当しています。8月11日(金・祝)のワークショップ「水辺の生き物を作って泳がしてみよう!」では、有限会社トリガーデバイス(卒業生関連企業)が制作協力を担当しました。

2017年08月05日(土) - 2017年08月13日(日) 10:00 - 19:00
大垣市サイトピアセンター アートギャラリー(学習館1階)



IAMAS イベント

- 毎年、修了研究発表会・プロジェクト研究発表会を開催し、成果の発表を行っています。
- 隔年で岐阜おおがきビエンナーレおよびOgaki Mini maker Faireを開催し、新しいアートやものづくりに関する発信を行っています。

IAMAS2017 第15期生修了研究発表会・プロジェクト研究発表会 [卒展] Graduation and Project Research Exhibition

学生が、IAMAS2017のテーマ「ひらく」をキーワードにゲストを招いたトークイベントやライブ、学生有志によるパフォーマンスなどを企画し、修士課程の2年間で研究・制作したメディアアートやデザイン、音楽など「芸術と科学」を融合したユニークな作品の数々を展示・発表しました。また、研究領域を横断して取り組む本学のプロジェクト研究における成果を紹介したほか、トークイベント、音楽イベントなどIAMASならではの多彩なイベントを実施しました。

2017年2月23日(木) - 2016年2月26日(日) 10:00 - 18:00
ソフトピアジャパン・センタービル(3F ソピアホール)



Craft, Fabrication and Sustainabilityプロジェクト



- Program
- 2017.02.23(木)
 - 13:00-13:30 オープニングセレモニー
 - 13:30-15:00 プロジェクトツアー
- 2017.02.25(土)
 - 13:30-15:00 プロジェクトツアー
 - 15:00-16:00 梅田哲也氏パフォーマンス&トーク
「いま、ここで、ひらくこと」
 - 16:30-17:30 miri meterトーク
「ありふれた場所がかわるとき」
 - 18:00-20:00 ウェルカム・パーティー
- 2017.02.26(日)
 - 13:30-17:00 プロジェクトツアー
 - 15:00-17:00 これからの創造のためのプラットフォーム
第16回「オキナワという空間」
 - 17:30-18:00 クロージング・セレモニー
- プロジェクトツアー
ご来場の皆さまにプロジェクトの研究成果についてより深くご理解いただけるよう、展示ツアーを設けました。ツアー形式でそれぞれのプロジェクトの説明を受けながら展示会場を巡回いただきました。



佐藤大海

岐阜おおがきビエンナーレ2017 『新しい時代 メディアアート研究始め』

3人のメディアアーティスト、藤幡正樹、三輪眞弘、久保田晃弘の主要な活動を主題としたシンポジウムと、資料で構成した展示を実施します。本展では、3人の作家の多様な作品世界を通じて、芸術、音楽、デザインを切り口に、メディア・テクノロジーの諸相、つまりコンピュータ、コード、インフラストラクチャーに関わるアーキテクチャに着目し、社会の深層から、横断的研究のプラットフォームを提案します。これまで一過性の現象として消費されがちだったメディアアートを、作品をとりまく資料から再配置し、歴史的視座から捉え直す試みを、「新しい時代」と位置づけ、展覧会タイトルとしています。会期中に開催されるシンポジウムは、すべてインターネットで中継・配信し、2017年度の紀要にまとめる予定です。

2017年12月19日(火) - 2017年12月24日(日) 11:00 - 19:00
情報科学芸術大学院大学附属図書館、ソフトピアジャパン・センタービル

赤羽亨准教授、伊村靖子講師、大石桂誉システム管理業務専門職、金山智子教授、古澤龍研究員、前田真二郎教授、松井茂准教授、山田晃嗣准教授、山田聡システム業務専門職
協力: HD II 高精細映像技術を用いた表現研究プロジェクト、IAMAS図書館・アーカイブ・プロジェクト

- ・藤幡正樹、70点(ノート等)
- 「アートとコンピュータ」「AtoMによる資料閲覧」「アルゴリズムック・ビューティー(上映)」「Light on the NET(関連資料)」
- ・三輪眞弘、121点(演奏会関連資料・記録映像等)
- 「メディア・パフォーマンス」「AtoMによる資料閲覧」「記録映像(上映)」
- ・久保田晃弘、403点(デジタルデータ等)
- 「ライブ・コーディング」「AtoMによる資料閲覧」

- 研究会(タイトルは仮題):

2017年12月19日(火)18:00 - 19:30 セミナーホール
「新しい時代:作家と研究者の出会いを求めて」
藤幡正樹、久保田晃弘、三輪眞弘

2017年12月20日(水) 15:00 - 18:00 ギャラリー1
「再展示、再制作、再演」

三輪健仁(東京国立近代美術館学芸員)、石谷治寛(京都市立芸術大学芸術資源研究センター講師)、赤羽亨(IAMAS准教授)

2017年12月21日(木) 15:00 - 18:00 ギャラリー1
「資料を活かす、資料をつくる」

松隈洋(京都工芸繊維大学デザイン・建築学系/美術工芸資料館教授)、渡部葉子(慶應義塾大学アート・センター教授)、石谷治寛(同上)

2017年12月22日(金) 15:00 - 18:00 セミナーホール
「久保田晃弘:コードを記述し、実行し、保存する」

松川昌平(建築家/慶應義塾大学環境情報学部准教授)、市川創太(建築家/doubleNegatives Architecture Ltd.)、永田康佑(美術家/東京芸術大学大学院映像研究科博士課程在籍)

2017年12月23日(土) 15:00 - 18:00 ギャラリー1
「三輪眞弘《夢のガラクタ市》二つの再演をめぐって」

北野圭介(立命館大学映像学部教授)、有馬純寿(エレクトロニクス/手塚山学院大学人間科学部准教授)、篠崎史子(ハーピスト)

2017年12月24日(日) 15:00 - 18:00 ギャラリー1
「藤幡正樹《Light on the NET》を解読する」

篠原資明(高松市美術館館長)、喜多千草(関西大学総合情報学部教授)、飯田豊(立命館大学産業社会

Ogaki Mini Maker Faire 2016

Maker Faireは、電子工作やロボット、クラフト、ペーパークラフト、電子楽器、サイエンス工作、リサイクル／アップサイクルなど、様々な分野のつくり手「Maker」たちが全国から集まり、つくったものを見せ、語り、その楽しさを共有するイベントです。大垣での開催は今回で4回目となり、2016年に開催した「Ogaki Mini Maker Faire 2016」は146組の出展者と約6,000人の来場者により、驚きと興奮と共感に沸きました。

個人やグループ、コミュニティ、学校、企業など、多様なMakerによる作品の展示や発表のほか、来場者が家族で楽しめるワークショップやライブ、プレゼンテーションなどが開催されました。

2016年12月03日(土) 12:00 - 18:00

2016年12月04日(日) 10:00 - 18:00

ソフトピアジャパン・センタービル

小林茂教授、八嶋有司(元) 研究員、伊藤晶子情報支援専門職



— Ogaki Mini Maker Faire 2016 関連事業 — - 前夜祭トークセッション

2016年12月2日(金) 19:00 - 21:00

SF作家 野尻抱介氏 × 小林茂教授

ソフトピアジャパン・センタービル 1Fセミナーホール

- NxPC.LIVE Vol.24

2016年12月3日(土) 20:00 -

ソフトピアジャパン・センタービル BF駐車場

NxPC.プロジェクト 平林真実教授



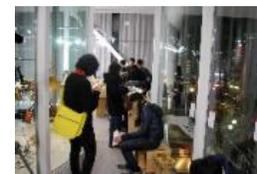
— 展開図武道会 ～この椅子いいすね！～

統一した制約条件のもとでスツールを製作し、プロダクトとしての完成度を競うことを通じてデジタルファブリケーションの可能性を探求することを目的としたコンテストを開催しています。2012年に開始し第5回となる今回は、初回から続いている接着剤なし・MDF2.5mmのみでつくる「MDF2.5mm級」に、材料などの制限がほぼない「無差別級」を加え開催されました。

2016年12月03日(土) - 2016年12月04日(日)

Craft, Fabrication and Sustainabilityプロジェクト

小林茂教授、高見知里技術支援専門職



イノベーション工房プロジェクト

— デジタル製造業 —

IAMASでは自分の手を動かして新たなテクノロジーを体験する機会を提供していきます。記念すべき第1回は、デジタル製造業の要となるツールを多数擁するオートデスク株式会社から2名の専門家を招いて開催します。Fusion 360を活用し、製品開発に関わる人々の間で設計情報を共有し、レビューし、バージョンを管理することを通じて、デジタル製造業への一歩を踏み出すことを支援します。

-サロン

世界のものづくりでどのような「破壊的」変化が起きていて、その変化を迎え撃つためのツールとして何が有効なのかを2つの講演を通じて紹介/ 定員: 50名

-ワークショップ

3D CAD/CAM/CAE という、製品開発に必要な全てのプロセスをクラウド上のプラットフォームで繋ぐことができる統合ツール「Fusion 360」を体験/定員: 10名

2017年12月01日(金) 10:00 - 17:00(予定)
ソフトピアジャパン・センタービル、WORKSHOP24
小林茂教授、高見知里技術支援専門職、
伊藤晶子情報支援専門職



社会との関係

- 産官学連携の件数は増加傾向にあり、イベントや展示・展覧会が特に多くなっています。

なつやすみイアマスこどもだいがく

大垣市とIAMASが連携し、夏休みの自由研究に使えるワークショップを開催しました。

第1回は金山智子教授、卒業生で「E」の中村親也さん(2015年修了)と山口歩那さん(2015年修了)による「ララ〜ラジオ〜♪自分のラジオつくってみんなの放送たのしもう♪」、第2回は工藤恵美さん・野呂祐人さん(修士1年生)による「モノを作る&モノで話す モノトーク・ファクトリー」、第3回はRCIC 古澤龍研究員による「赤だと思ったら緑だった!?虹色ライトの中で絵を描こう」、第4回はクワクポリウタ准教授とあたらしいTOYプロジェクトによる「どこまでが自分でどこからが自分じゃないのか実験」を実施しました。

2017年08月05日(土) - 2017年08月25日(金) 全5回
workshop24、大垣市情報工房ほか

あたらしいTOYプロジェクトほか
金山智子教授、クワクポリウタ准教授、IAMAS学生

-第1回

「ララ〜ラジオ〜♪自分のラジオつくってみんなの放送たのしもう♪」

2017年8月5日(土)

概要:基盤に半田付けをして、小さなスピーカーを取り付け、紙の箱に入れて、両手のひらサイズのラジオをつります。会場のミニラジオ局で話します。

-第2回

「モノを作る&モノで話す モノトーク・ファクトリー」

2017年8月11日(金・祝)

概要:身近な素材を使ってフィーリングで造形し「モノを作ってから考える」。完成した「モノ」を見て、「作った本人」、そして「他の参加者」と考え「トーク」し、他の人のアイディアに触れながら、いろんな視点からみることにチャレンジします。

-第3回

「赤だと思ったら緑だった!?虹色ライトの中で絵を描こう」

2017年8月23日(水)

概要:色が変わる照明の下で、絵を描きます。照明の色が変わると、当然、描いている絵の見え方も変わり、いつもの環境とは違う環境に驚くことでしょ。このようなお絵描き体験を通して、色と光の不思議について理解を深めます。

-第4回

「どこまでが自分でどこからが自分じゃないのか実験」

2017年8月25日(金)

概要:私たちは普段、自分の意思決定は自分自身が主体的に行っていると考えていますが、本当にそうでしょうか? 主体的な判断よりも自動化された判断の方が共通の利益をもたらすような状況に近い将来やってくるかもしれません。今後人工知能は社会のあらゆる領域に入り込んでくることでしょう。それに伴って、私たちの自由意志のありかたはどのように変化していくのでしょうか。



養老アート・ピクニック

平成28年10月に岐阜県が策定した「岐阜県都市公園活性化基本戦略」に基づき、養老公園の基本コンセプト「健康長寿の願いと命への緩やが込められた自然と歴史をたどる」に沿って、シニア世代や新たなアーティストや世界をターゲットに、公園の新たな魅力づくりにIAMASが連携・協力しています。

[協力内容]

- 移動体芸術プロジェクト・空の日
2017年11月18日(土) 10:00-21:00、2017年11月19日(日) 10:00-16:30
- ARワンダーピクニック
2017年11月18日(土)-19日(日) 10:00-16:30、
- ウィーラーズスクール
2017年11月19日(日) 13:00-15:00
- バックハック
2017年11月18日(土)-19日(日) 10:00-16:30
- ハイキング&ハッキング
2017年11月18日(土)-19日(日) 10:00-16:30
- ナイトイベント「YORO ART NIGHT」
2017年11月18日(土) 17:00-21:00



2017年11月18日(土) - 2017年11月19日(日) 10:00 - 16:30 ※18日は17:00-21:00にナイトイベント

主催: 県都市建設部都市公園課、連携: IAMAS

養老公園一帯(芝生広場、養老天命反転地)

移動体芸術プロジェクト / 赤松正行教授(総合ディレクション)、IAMAS学生、クワクポリウタ准教授

- 岐阜各務野高等学校(赤松正行教授) H28年度・H29年度

情報コンテンツ分野で活躍する人材を育成するための学習・指導方法及び評価方法の工夫・改善に関する実践研究

- 羽島特別支援学校(山田晃嗣准教授) H28年度から1月1回

「特別支援学校におけるタブレット端末の就労支援への活用可能性調査事業」(文科省予算)

- 岐阜霊学校、岐阜盲学校、希望が丘特別支援学校、大垣特別支援学校(山田晃嗣准教授、篠田幸雄さん(2016年修了)) H28年度から連携

デジタルアプリケーションに関するワークショップ提案、レーザーカッターの研修、3Dプリンタのワークショップ

- 大垣市立東幼稚園(安藤泰彦教授、小林孝浩教授、山田晃嗣准教授) H29年度

1年の必修授業、情報学基礎で無線タグ付き加速度センサーを用いた遊びを提案。

- 大垣市情報工房での展示

大垣市の設置する情報工房1階エントランスホールで、IAMAS2016第14期生修了研究発表会・プロジェクト研究発表会[卒展]を紹介する映像を公開しました。

2016年度 - 2017年05月09日(火)

大垣市情報工房(大垣市小野4丁目35-10)



出版 報

- IAMASの研究や各種の活動について認知や関心を高めるための広報活動を行っています。
- 教員による研究や活動を掲載する「紀要」や、プロジェクト成果を纏めた冊子など、IAMASの研究活動の記録も行います。

情報科学芸術大学院大学紀要

Journal of Institute of Advanced Media Arts and Sciences

第8巻 2016年 特集 クリティカル・サイクリング



- ・クリティカル・サイクリング宣言
- ・クリティカル・サイクリング事始め ほか

[シンポジウム]

- ・メディア・アートとは何か?IAMAS20周年から考える
- ・メディア・パフォーマンスとは何か?IAMAS20周年から考える

[研究ノート]

- ・戦後日本におけるマス・メディア受容と現代芸術の文化学
- ・メディア表現視点からのコンピュータ環境の進化
- ・地域メディアと災害の記憶
- ・Field Hack: 多様なスキルを持つクリエイティブな人々の地方における在り方を「辺境」における短期間の活動を通じて協働創造する試み
- ・Nxp.c.Lab: 音楽体験を拡張するための実践的活動基盤
- ・小規模兼業農家の挑戦 (ii)
- ・IAMASにおけるネットワーク環境について2016

[評論]

- ・落語の身体論(6)『火事息子』、飛び越える炎としての親子愛

[Back Number]

第7巻	2015年	特集	これまでの20年、これからの20年
第6巻	2014年	特集1	いま、大学で学ぶこと
		特集2	これからの創造のためのプラットフォーム
第5巻	2013年	特集	<これからもイアマス> 領下町からソフピアへ
第4巻	2012年	特集	ものづくりコミュニティの新たなかたち
第3巻	2011年	特集	三輪眞弘教授の芸術選奨文部科学大臣賞を祝す
第2巻	2010年	特集	次世代インターフェイスに向けた取り組み
第1巻	2009年	論文	ブロック型表示インターフェースの開発(鈴木直也教授ほか)

ソフトピアジャパン・センタービルでのIAMAS広報活動

ソフトピアジャパン・センタービル1階において、IAMASの研究活動の広報を行っています。オープンハウスや卒業制作展などのお知らせのほか、教員や修了生の作品展示などを行います。

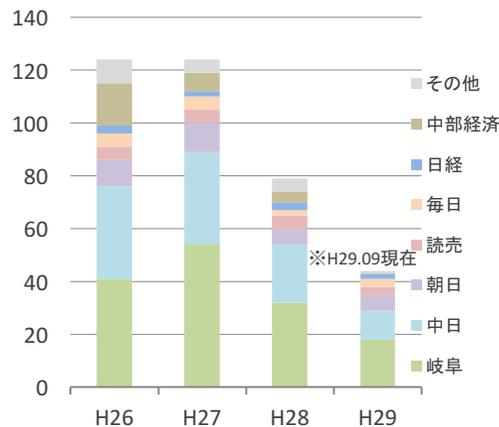
2017年08月08日(月) - 2016年09月30日(土)

『One-size-fits-one』

赤羽享准教授、金原佑樹(2014年修了)、富田太樹(2015修了)、大山千尋(2016年修了)



メディア露出



IAMAS WEBサイトリニューアル



2017年10月に、IAMASの公式WEBサイトを全面リニューアルし、公開しました。併せて、RCICでは多様な教育・研究・連携活動を伝えるWEBサイトを立ち上げました。OB/OGインタビューを特集掲載しています。



Wao! Club®



「イアマスからのお知らせ86号」の発行

西濃地域の生活情報誌『Wao!(9月号)』の巻頭特集で、「科学技術×芸術で今を見つめる 情報科学芸術大学院大学の挑戦」と題して掲載されました。

「イアマスからのお知らせ(IAMAS NEWSLETTER)」は学生が取材、編集、デザインを担当し、教職員(瀬川晃准教授、伊村靖子講師)の監修で発行している紙媒体のお知らせです。86号は後藤祐希さん(修士1年)と井上奈那美さん(修士2年)が担当しました。2004年創刊以来多くの方に好評をいただきながら最終号となりました。

運営

－ 授業料、入学金その他の費用

- 入学前に必要な費用

入学金
 県内の者:226,000円
 県外の者:338,000円

- 在学時に必要な費用

授業料
 年額 535,800円
 前期 05月02日までに納付
 後期 10月31日までに納付

- 入寮者のみ

寮費 22,800円/月
 共益費 35,000円/年（前納）

- 授業料減免に関する情報

学業に精励し、人物健全な者で、次の各号のいずれかに該当する場合、授業料の減免または納入期限の延長が認められる場合があります。

1. 生活保護法第6条第1項に規定する被保護者の世帯に属する者
2. 長期疾病、生業の不振又は失業のため、その生計が著しく不良となり、前号の被保護者に準ずる程度に困窮していると認められる世帯に属する者
3. 天災その他の災害により著しく損害を受け、学資の支弁が困難な世帯に属する者
4. 知事が別に定める基準により情報科学芸術大学院大学特別給費生として認めた者
5. その他知事が特に減免等の必要があると認めた者

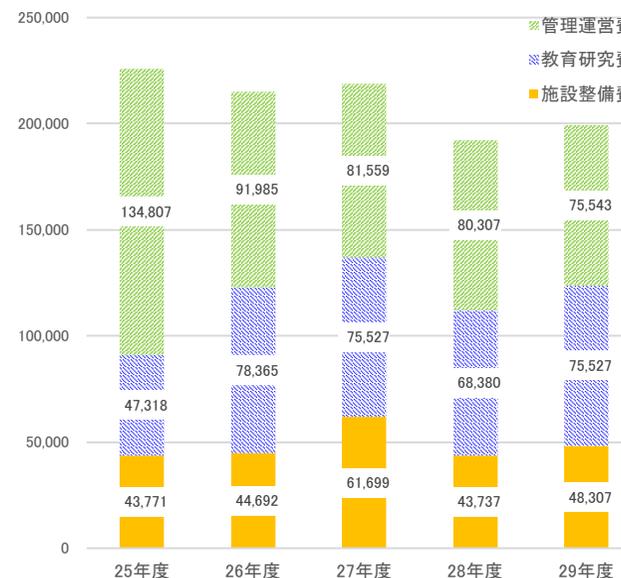
－ 情報科学芸術大学院大学に対する大学評価（認証評価）結果

情報科学芸術大学院大学は、公益財団法人大学基準協会による2014年度大学評価（認証評価）の結果、同協会の定める大学基準に適合していると認定されました。

認定期間:2015年04月01日～2022年03月31日

－ 運営事業費(当初予算額)の推移(人件費を除く)

(単位:千円)



※平成25年度は管理運営費に移転経費を含む
 平成27年度は施設整備費に新ネットワーク構築費を含む



学 生 支 援

- IAMASの学生は、多様な専門分野、様々な地域から入学があるため、進路についても多様な要望に対応する形で支援しています。
- 学生の皆さんが、研究や制作活動に打ち込めるよう生活についての支援も行っています。

- キャリアセミナー

学生が進路を検討するために必要な支援を行っています。

- 2017年05月15日(月) 13:20 - 16:25

[多様な働き方のために知っておきたいこと]

- 水野 祐氏

弁護士／シティライツ法律事務所(東京弁護士会所属)

- ・フリーランスとして最低限必要な法律、契約に関する知識
- ・新しい権利や法との付き合い方(リーガルデザイン)

- 山本真理氏

公認会計士・税理士／Yamauchi Accounting Office代表、Arts and Law代表理事

- ・法務、税務のショートレクチャー、Arts and Lawの活動紹介、ミニワークショップなど

- 2017年10月02日(月) 13:20 - 16:25

在学生在進路を考える際に参考となるよう、身近な本学卒業生からの声を聴く機会を提供しています。

- 中村親也氏(2015年修了)

KAKKO E 合同会社代表社員／大垣女子短期大学非常勤講師／
日本総合ビジネス専門学校非常勤講師

- 井澤謙介氏(2011年修了)

チームラボ株式会社カタリストチーム／プロダクトチームカタリスト

- 吉田めぐみ氏(2013年修了)

anno lab デザイナー／プロジェクトマネージャー／一般社団法人未来マトリクス顧問

- キャリアカウンセリング

学生一人一人に対し、担当教員が進路について面談を行っています。

- 国際交流員

海外出身の教員や交換留学生のサポート、IAMAS研究成果の海外発信などのため、自治体国際化協会(クレア)「語学指導等を行う外国青年招致事業(JETプログラム)」を活用し、国際交流員(Coordinator for International Relations[CIR])を受け入れています。

学生の研究活動にも大きな支援となります。

- 交換留学制度

IAMASでは、海外の教育機関との学生交流事業を実施しています。

このプログラムは、学生に海外で豊かな経験を積んでもらうもので、毎年1名が提携校に1～3か月留学するとともに、提携校の学生がIAMASに滞在し、互いに交流を深めます。

現在の提携校: リンツ美術工芸大学(オーストリア)

- 学生寮[RIST]

学生寮[RIST]は、IAMASから約1.3Kmの住宅街に位置し、ユニットバス、ベッド、電気調理器具など快適さと機能性を備えた生活空間となっています。また、学生が利用しやすい寮費としています。(オール電化のためガス調理器具・暖房は使用できません。)

大垣市藤江町1丁目1-7

全40室(洋間)



- 仮眠室

夜間の帰宅困難時はセンタービル2階に、仮眠を取ることができる和室があります。研究活動で疲れた身体を癒します。

- 保健室

月曜日から金曜日(休日を除く)の午前9時～午後3時45分の間はセンタービル3階の保健室に常備薬を置き、怪我の応急処置に看護師が対応します。健康に関すること、毎日の暮らしに関すること、精神面のことなどの相談に対応するほか、気分の優れないときには休養室で横になって休むことができる場所となっています。

- カウンセリングルーム

週1回(毎火曜日:12時30分～16時30分)、センタービル3階保健室2では、随時カウンセリングを行っています。臨床心理士の2名のカウンセラーが交代で対応します。

- シャワールーム

ドリームコア6Fにあるシャワールームを利用することができます。

入試

- 入学生の獲得に向けて、毎年、夏のオープンハウスの開催や秋・冬の進学相談会、卒展会場でも進学相談会を実施しています。
- また、入試に関する相談や学校見学は随時受け付けています。
- 芸術系や情報系の他の大学教員に向けて、本学教員からの依頼状を添えて募集要項を送付し、入学生の獲得に取り組んでいます。

IAMAS Open House 2017 - 今はっきりさせよう、メディア表現学 -

今年のオープンハウスはレクチャー中心で構成し、IAMASの全教員が登場しました。全教員による活動紹介「全教員が語る」、三輪学長による基調講演、シンポジウムが開催されました。

「全教員が語る」では各教員が2日間に分かれリレー形式で研究活動を紹介したほか、「わたしのメディア表現学宣言」と題した三輪学長による基調講演では、「メディア表現学」という新しい知的領域に迫りました。また、会場に来ることができない人に向けて、一部をストリーミング配信しました。

学生主体となった展示や有志企画も行われ、プロジェクトや個人の研究成果を、作品、パネル、体験するなど、それぞれが多様な形で発表しました。

トークイベントやカフェといった有志企画も行われ、えごまパンや、ヤーコン茶など、普段あまり口にする機会のないメニューで振る舞われました。

2017年07月29日(土) - 2017年07月30日(日) 10:00 - 17:00
workshop24、ソフトピアジャパンセンター



綿貫岳海(修士2年)



賀浦慧(修士1年)

進学相談会

1.進学説明会

本学教育課程の2年間の主な流れと研究活動について紹介し、入試日程や入試方法、出願手続きなどについて説明しています。

2.個別相談会

本学教員と面談して、作品制作、研究の進め方やIAMASの学校生活などについて相談を受けています。

2017年08月26日(土) 14:00 - 16:30, 17:00 - 19:30
都道府県会館(東京都千代田区平河町2-6-3)



- IAMAS進学相談会関連イベント

IAMASの活動紹介イベント終了後に希望者にはIAMASへの進学に関する個別相談会を開催しました。

「IDEA SKETCHING Workshop by IAMAS」
2017年09月02日(土) 13:00 - 19:00
MTRL KYOTO / FabCafe Kyoto
(京都府京都市下京区本塩竈町554)



いまなら
きける

「おとなの学校 with イアマス」

2017.08.31(木)
カンダマチノート 2F(岐阜県岐阜市神田町3-3)

[トークイベント]

金山智子(IAMAS教授)

廣瀬周士(アーティスト/sketch on主宰)

伊藤晶子(デザイナー/IAMAS専門職)

末永三樹(ミユキデザイン代表取締役)

2017.08.27(日)~2017.08.31(木)

IAMASの関係資料や研究作品を会場配布

2017年07月22日(土) 14:00 - 18:00
テレビアホール(愛知県名古屋市中区東桜1-14-25テレビアビル2F)
(赤松教授グループによる展覧会「心おどる! かざす未来のアート ARワンダーランド」とタイアップした進学相談会を実施しました。)



